

一、御旅方・御道中方并惣御仕着類請拂。
 但、御挾箱・御長持覆等之類出來申付候事。
 一、認方、木具・桶諸役所より輸入之儀申付候事、都而上認申付る。其外樟腦・蠟大坂到來物、しゆろ帚請拂。
 一、銀留所に而は、金銀錢迄之諸切手、留場印請申事。
 一、入立所には、金銀之外諸色之切手、尤入之類不残留帳印請候事。
 但、御服・料紙等夫々役所に入立申事。

二一 役革之儀覺

一、役革納申御土藏在之、取次足輕之内一人革裁許申付置、請拂仕候事。御土藏鎖前、古物裁許与相封仕候。御細工所之脇に在之候。入拂、前々は役人代り之節改候得共、近年は帳面に而引渡仕候。御儉約以來之事。

覺

- 一、六十五枚 地馬皮滑皮
- 一、三十枚 地越滑皮
- 一、八枚 地板目皮

- 一、十間 皮件綱
 - 一、四口 加州・能州分 地馬皮滑皮
 - 一、三十九枚 地越滑皮
 - 一、十七枚 地板目皮
 - 一、十二枚 地板目皮
 - 一、三口 越中分
- 右每歲三ヶ國役皮。

二二 炭薪藏之儀覺

一、炭・薪裁許、御歩四人相勤、會所より請拂之儀申付候事。會所に而誓詞仕候。
 但、炭・薪等請負直段僉議は、御算用場より相渡、時々申談有之儀に候。指支候へば御算用場の申遣候事。
 一、炭・薪藏役所見分に、同役元御横目同道可罷越事。
 一、木呂は何棚に而茂、薪裁許御歩方に請候而、拂を立申候。杪・炭・油は夫々より請取切手之高程、其時々賣上主より請候而、相渡候事。
 一、炭・薪所下裁許足輕兩人、御門番足輕兩人有之候。御門

番は引越候而相勤候。下裁許は一日代り相勤候事。

二三 越後高田加賀屋與七郎に被下銀覺

覺

一、白銀五枚 高田 加賀屋 與七郎
 右與七郎儀、市振御關所、女中或亂心者等相通候刻、手形之儀取持仕候に付、每歲此節被下候間、今年茂被下候に而可有御座と奉存候間、奉伺候。以上。

何七月二日

誰

右被仰出次第、銀子受取、添紙面同役一兩人連名に而、町飛脚に傳附指出候事。

覺

一、白銀五枚 加賀屋 與七郎
 右每歲之通可被下被旨仰出候間、御目錄御渡可被成候。以上。

何七月

誰

御用人中様

二四 御參觀・御歸國前與力足輕請取方覺

覺

一、御參勤・御歸國前御荷物認方爲御用、與力・足輕請取申候。御月番に左之通紙面指出候事。別紙に委。

月 日

御用番名無判

宛所御月番様

覺

- 一、二 人 與力 御歸廿日程前
- 一、二 人 足輕

右今般御歸國御前後、御荷物受取申御用御座候間、追付相渡候様に仕度奉存候。以上。

月 日

御用番名無判